

# 浄化槽設置工事に 関する留意事項

### 【浄化槽の技術上の基準】

1. 浄化槽工事用の図面・仕様書に基づいて行う。
2. 浄化槽の構造基準に適合するように行う。
3. 浄化槽の設置位置、放流先の状況把握に努める。
4. 工作物の傾斜、倒壊等の防止措置を行う。
5. 根切り工事の深さ、地層等に応じ、地盤の崩壊防止措置を行う。
6. 基礎の状況等に関する記録を作成する。  
※写真に残す。
7. **コンクリートは、所要の強度になるまで適切に養生をする。**

### 【浄化槽設備士の設置】

- ・ 浄化槽工事業者は、営業所毎に浄化槽設備士を置かなければならない。
- ・ 浄化槽工事業者は、浄化槽工事を行うときは、これを浄化槽設備士に実地に監督させ、又はその資格を有する浄化槽工事業者が自ら実地に監督しなければならない。  
ただし、これらの者が自ら浄化槽工事を行う場合には、この限りではない。  
※浄化槽設備士が写っている工事現場写真を記録しておくこと。(補助事業で行っている場合は、特に必要である。)

### 【設置等の届出】

- ・ 浄化槽工事は設置届けの日から21日(形式認定浄化槽は10日)経過しなければ工事に着手出来ない。

### 【写真の種類(特に必要な写真)】

1. 浄化槽設備士が実地に監督していることを証する写真
2. 基礎工事の状況を示す写真  
栗石地業及び捨てコンクリートについて
3. 据付工事の状況を示す写真  
水張り  
水平を保つこと。  
水締め及び突き固めを行っていること。
4. かさ上げの状況を示す写真

### ※既成底版コンクリート(PC板)を使用する場合は以下の写真を添付すること

5. PC板の確認写真  
PC板を吊り込む以前に、地上に置いた状態でPC板のメーカー名・PC板の寸法が確認できること
6. PC板設置時の写真  
PC板を所定の位置に吊り込みが完了した状態で撮影すること  
水平器等でPC板の水平設置が確認できること

### 【基礎工事】(現場打ち)

#### 小規模合併処理浄化槽(50人以下)

割栗石・目潰し砂利 100mm以上

捨てコンクリート 50mm以上

※墨だしをし、配筋や型枠の施工を容易にするためにならず打つ。

#### 鉄筋コンクリート

コンクリート厚さ 150mm以上

配筋 D10-200@(シングル)

※配筋・鉄筋の最小のかぶりの厚さは、60mm(捨てコンクリートを除く。)

#### 合併処理浄化槽(51人以上)

割栗石・目潰し砂利 150mm以上

捨てコンクリート 50mm以上

※墨だしをし、配筋や型枠の施工を容易にするためにならず打つ。

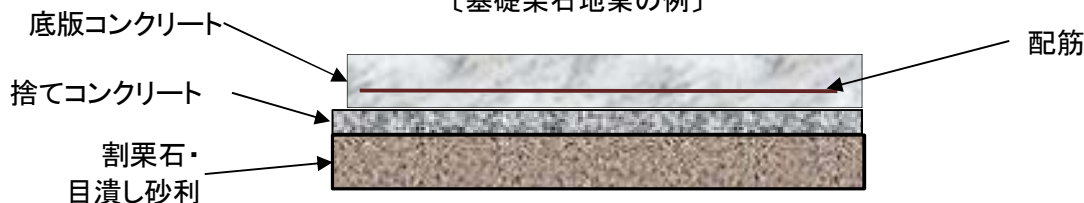
#### 鉄筋コンクリート

コンクリート厚さ 200mm以上

配筋 D13-200@(ダブル)

※配筋・鉄筋の最小のかぶりの厚さは、60mm(捨てコンクリートを除く。)

### 〔基礎栗石地業の例〕



【基礎工事】(既成底版コンクリート)

砕石基礎 100mm以上(φ40~0mm)  
底版据付 傾きのないように据え付けること

【現場打ちコンクリートの型枠及び支柱の取り外しに関する基準】

せき板	建築物の区分	セメントの種類	在置日数			備考
			在置期間中の平均気温			
			摂氏15度以上	摂氏15度未満 摂氏15度以上	摂氏15度未満	
せき板	基礎	早強セメント	2	3	5	緊急工事 冬期工事
		普通セメント	3	5	8	一般工事

### 【掘削時の留意点】

オープンカット工法		山留め工法	
①	周囲に建築物などが無く、広さに余裕がある場合	①	敷地が狭く安全なのり面勾配がつけられない場合
②	掘削深さが浅く、地質が比較的硬質粘土層や赤土層などの良質地盤の場合	②	建築物や道路に接して深く掘削する場合
③	湧水がない場合	③	湧水が多い場合

#### ※オープンカット工法

のり面(斜面)の安定が大事。土質にあった掘削角度にする。

#### ※ 山留め工法

木製矢板(簡易な山留め)、鋼矢板(湧水対策に有効)など。

### 【水替工法】

- 湧水があった場合には、現場にあった湧水処理を施す。  
工法として
  - ・排水工法 釜場工法・ウェルポイント工法
  - ・止水工法 鋼矢板工法・薬液注入工法

## 【管渠の勾配】

管径(mm)	勾配
65以下	最小勾配 1/50
75、100	最小勾配 1/100
125	最小勾配 1/150
150以上	最小勾配 1/200

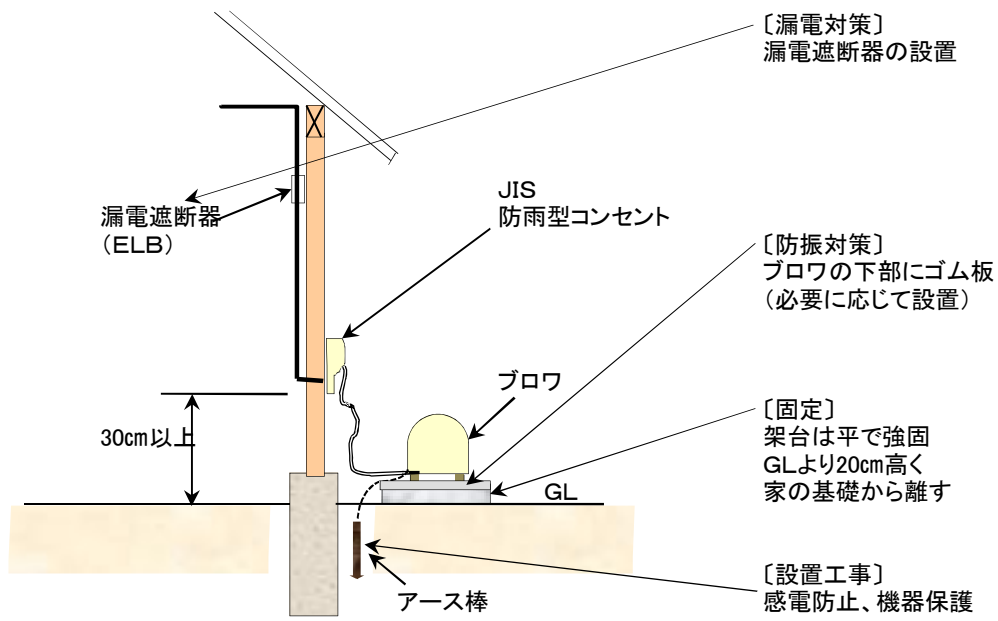
※土被りは、起点で20cm以上とする。

※やむをえず露出配管とする場合は、衝撃、耐候性に配慮し、ヒューム管等で配管する。

## 【弁の位置及び種類】

- ・ 弁の位置
  - ① 起点 : 各排水が屋外に出た所に弁を設置
  - ② 屈曲点 : 45度以下の屈曲点
  - ③ 合流点 : 2系統以上の排水の合流点に弁を設置
  - ④ 間隔 : 直線部分では、内径の120倍を超えない範囲内に弁を設置
- ・ 弁の種類
  - ① 流入側の弁は全てインバート弁とし、密閉出来る蓋
  - ② 洗濯機等でトラップがない場合にはトラップを使用(二重トラップとならないように注意)

## 【ブロワの設置、稼働状況】



※配管距離：電磁式は、浄化槽から5m以内